無料法律相談日の案内
9月19日(金)14時～16時
希望者は前日までに予約を

８月初組合員数＝1,977人(-22人)

おれたち

発行所
東京土建一般労働組合荒川支部
東京都荒川区荒川６－３－１
TEL(3892)9131　FAX(3892)9381
発行者・豊田佳二／編集長・堀 茂男
http://www.doken-arakawa.org/

教育は歴史を否定するのか
小学校・中学校教育について

今年の平和特集は、小学校及び中学校の戦前と現在の教育について、高岡岑郷（しんごう）国民学校一年生の会事務局長、飯田朗荒川第九中学校教諭、松丸昇一第六日暮里小学校教諭の３人に取材し、お話を聞きました。

取材　小野澤富彦記者＝西尾久分会
川又好一記者＝日暮里一分会

高岡氏は９条の会はじめ旺盛な平和活動もしている

皇民化教育と国民学校教育とは

まず、高岡岑郷氏に話しを聞きました。

作家久米正雄の父で由太郎は、長野県小県郡上田町の町立上田尋常高等小学校（現在の上田市立清明小学校）の校長であったが、１８９８（明治31）年、小学校で起きた火災によって明治天皇の「御真影」を焼失してしまい、その責任をとって割腹自殺をした。小説『父の死』である。１９４５（昭和20）年の太平洋戦争終戦までに、「御真影」焼失で30人にのぼる学校関係者が自殺していた。「御真影」は人間の命よりも重かったと言うことか。

昭和18年3月付けの京都市本能国民学校の「修了記念」と題された卒業アルバムの扉に、校長のはなむけの言葉が掲載されている。「《（前略）今日栄えある修了の喜びを胸に秘めて校門を出て、明日からは同じ窓に学んだ人々が別れ別れて進む道、それが如何なる方面に向ふにしてもただ一筋に、御聖勅の御旨を奉戴挺身君国に殉ずる為の修養研鑽を積まなければなりません。私は「強く生きよ、最後まで頑張れ」更に又「征け、戦へ、死ね」この二語を贐（はなむけ）として皆さんの門出を勇ましくも送り且つ記念写真に添える言葉と致します。（後略》」と書かれていて、皇紀２６０３年３月京都市本能国民学校長今澤美雄とある。まさに「国のため、天皇のために、戦争へ行って、死ね」と教えた。これこそが「国民学校教育」だったと、高岡氏は話してくれました。取材者である戦後生まれの私にとっては、戦前はこんな恐ろしい事を子どもたちに教育していたことに驚くばかりでした。

新しい憲法は戦後出発の原点

「国民学校」は、１９４１（昭和16）年４月から戦後の１９４７（昭和22）年３月まで続いた。高岡氏は実にこの６年間だけ存在した「国民学校」に、すっぽりと入っていて「小学校に通ったことのない」稀有な体験を持つ年代である。国民学校を終えた時に新しい学制（六三制）となり、新制中学校に全員そろって進み、2学期に『あたらしい憲法のはなし』（文部省編）を真っ先に学んだそうです。なかでも、「第二章 戦争の放棄　第9条」の絵と文は、それまでの軍国少年少女の戦後出発の原点となったと話していました。

飯田朗教諭

ひき続いて、飯田朗荒川第九中学校教諭と松丸昇一第六日暮里小学校教諭のお2人に話しを聞きました。

最近の社会情勢は、「教育勅語」の精神を道徳教育に対し、どう生かすかということについての議論が見え隠れするような時代になってきているように感じていると話されていました。

決して過去の学校教育に再び戻らぬように現場に立つ先生方は奮闘しています。日常の授業やテストなどで多忙のなか、さらに余裕も無いなかでも、子どもたちに情熱と愛情をもって接し、平和のありがたさなどの教育に触れさせ、奮闘されている姿をあらためて知りました。

松丸昇一教諭

ハガキ要請が最大の力
国保補助金獲得のためのたたかい

【社会保障対策部】私たちが加入している東京土建国保の建設国保は、私たち建設業の実態に最も適した保険制度です。運営は、私たちが納める保険料収入と国、東京都からの補助金でおこなわれています。補助金獲得のハガキ要請の取り組みは、７月及び８月が厚生労働省宛、９月及び10月が東京都宛、11月及び12月は財務省宛と続きます。当然、都議会議員にも東京都からの補助金確保のための賛同署名を頂いたり、予算要求集会も７月と11月におこなっていますが、皆が書いた１枚１枚のハガキの力は効果絶大です。郵便投函したハガキは届いた先で山積みにされ、担当者が１枚１枚点検をしています。

今年もすでに、地元都議には賛同署名を頂いています。補助金獲得により予算を確保し、国保制度を維持することは土建国保と労働組合の維持や増加につながり、組織力の強化にもなります。引き続き、ハガキの取り組みに国保加入を問わず、ご協力をお願いします。

上が崎山都議、下が鈴木都議

ひぐらし

昭和49年８月30日正午過ぎ、丸の内にある三菱重工業東京本社ビルを標的にした「爆弾テロ事件」が発生。大型時限爆弾によって、多数の通行人が巻き込まれ死傷。爆風と飛び散ったガラス片等により死者８人、負傷３７６人と戦後日本最悪の爆弾テロ事件となった。

この犯行は、東アジア反日武装戦線「狼」による無差別殺傷テロである。その後もさらに企業爆破事件が相次ぎ、日本中が恐怖し、衝撃を受けた。

▼先の閣議決定で集団的自衛権の行使が容認され、戦争をする国になったことから、日本及び国民が脅威にさらされた場合、他国を攻撃すれば、相手から何らかの攻撃を受ける事となる。また、国内外を問わず、40年前のような無差別爆破事件などが起これば一般国民は恐怖で外出も出来ない事となる。

▼食の安全性を問う事件は中国で後を絶たないが、また問題が発生した。過去の毒入り餃子や粉ミルク事件とは異なり、今回の期限切れ肉や腐った肉の問題は長年使用し、悪質である。

▼今や中国は世界の工場であり、低賃金で電化製品や食品を製造輸出している。また、役人の腐敗汚職も多い国だ。これまで、反日感情からの事件被害も多い。武力行使より、食の安全こそ国民を守る事だ。（虎）

緊迫のシリア情勢
本部教宣部平和共同取材

【教育宣伝部・堀茂男部長】7月16日、全建総連会館において本部教育宣伝部主催の平和共同取材が、2人の講師を招いて行われました。

詳しい説明に皆、聞き入る

始めの講演は、「本土決戦を軍はどう戦おうとしたのか」と題し、明治大学平和教育登戸研究所資料館館長で日本軍事史に詳しい、山田朗（あきら）先生のお話を聞きました。

米国本土に飛ばした風船爆弾は、和紙を使って作っていた。その原料となる楮（こうぞ）は小学生が剥ぎ（はぎ）、劇薬である苛性ソーダを使い、和紙を作っていた。自動高圧装置を装着し、1000発は米国に到着したが、ピンポイント攻撃など出来るはずはなかった。

戦争を始めた1941年のデータでは、米国は日本に比べ、GDP（国内総生産）と鉄鋼生産が共に12倍あったことから、国力の差は歴然としていたにもかかわらず、戦争の道に突き進んでいった。以上の事の他、1943年から終戦までの3年間について、詳しく語っていただきました。

現地報告はリアル

2番目の講演は、内戦が続くシリアで取材活動をしているアジアプレス所属のジャーナリスト、玉本英子（たまもとえいこ）さんの「シリア内戦の実相」と題した現地報告でした。

シリアでは、連日行われる戦いによりイラク戦争に匹敵する15万人の死者が出ており、500万人以上が家を追われる事態となっている。現在、昼夜問わずあちこちで銃声が響いているといいます。

今から3年前の「アラブの春」と呼ばれるアラブ諸国全域に拡がった反政府市民運動デモを起点とし、シリア革命が起こった。

当初は、シリア政府軍と反体制派の武力衝突であったが、その後、政府軍、自由シリア軍に加え、クルド人政治組織の人民防衛隊が三つ巴となっており、反政府武装勢力同士の戦いも起きている。

戦闘で道路が封鎖されて物資不足が起き、物価が高騰し、水も出ない。学校も、無期限休校状況です。

子どもの作品展
どけん共済会主催

応募規定

1. 子どもは小学生（組合員、主婦の会会員の家族）に限定です。
2. 作品は絵画のみ（画用紙を使用。絵具は自由）
3. テーマは「家族」
4. 作品の大きさは八つ切りまでのものとします。
5. 応募は一人一点まで
6. 締め切りは、10月末

※作品はHPまたは本部で展示。詳細は支部担当迄。

原発はいらない
荒川区労評脱原発講演会

【荒川・磯部正三通信員】7月3日、荒川区労評主催の脱原発を考える講演会がムーブ町屋で行われました。

はじめに、「チェルノブイリ・28年目の子どもたち」というタイトルのビデオが上映されました。チェルノブイリ原発事故から28年経った現在のウクライナを取材し、学校や医療機関でどのように健康診断を行ない、保養につなげているのかなど日本にとって、参考になる取組みや日々の暮らし、行政や専門家の声がまとめられたものです。具体的な症状では5～6年後に甲状腺に異常が出始めるようです。

講演は、「原発はいらない・原発訴訟と秘密保護法」と題し、海渡（かいど）弁護士が講師でした。講演の結びで、「私達はあらゆる思想信条や社会的立場を乗り越え、脱原発の一点において団結し、我が国からすべての原発を無くすまで、訴訟等のあらゆる手段を尽くして闘い続ける」と宣言していました。

一歩ずつ活動前進
青年部バーベキュー

【青年部担当・仁田亮平書記】7月6日、都立舎人公園で青年部主催のバーベキュー交流会を開催しました。事前の予報では少し天気が心配されましたが、そんな心配をよそに当日は見事な快晴となりました。

そして、青年部員は当日加入者も含めて10人、外部招待の女性参加者は6人が集まりました。男性陣がそれぞれバーベキューの炭の火をおこし、女性陣が野菜などの食材の準備をするなど協力しました。また、今回のバーベキューでは焼りんごやチーズフォンデュ、タンドリーチキンなどの変わり種を用意したところいずれも大変好評でした。

今回初めて組合のイベントに参加した組合員からは「男子同士の交流も楽しかった。次回はスポーツイベント等も企画して欲しい！」との声もあがり、青年組合員同士の交流も深まって、今後の青年部活動に向けてまた一歩さらに前進しました。

しかし、今回のバーベキューでは担当の書記局が事前含め段取り準備に追われてしまって、青年部組合員と参加女性との交流を深めるイベントゲームを行いたかったところですが、事前の打ち合わせ準備不足もあり出来ませんでした。

今後は、青年部員も増えてきたことから、部会で企画を検討し、役割分担等も事前に割り振りして、参加者も増やし、さらにより良い交流会イベントを開催していきます。

晴天に恵まれ楽しい交流ができました

暑さに負けず歩む
2014国民平和大行進

【東尾久二・今野正夫記者】照りつける暑さの中の7月24日午後1時30分、区役所前の荒川公園に区内8団体から多くの仲間約60人が集まりました。土建からは、23人の参加でした。

荒川原水協理事の小林共産党区議の司会で、集会が行なわれました。

国民平和大行進は、5月6日に北海道礼文島を出発し、全国各地の仲間によるリレーにより、本日は荒川に。私達も原水爆禁止の横断幕を先頭に、区役所前の公園から台東区の花川戸公園まで行進しました。

通し行進者の山口逸郎さんは、非核と9条で輝く日本の運動の様子を話されました。

しかし、残念なのは年々参加者が減ってきていることです。

炎天下で汗流し歩く参加者たち

荒川探訪
素盞雄神社
取材・並木義男

石を神として尊崇する信仰は全国各地にみられるもので、当神社も石神信仰に基づく縁起を有する。平安時代延暦14（795）年4月8日の夜、小塚の中の奇岩が突如光を放ち、二柱の神様が翁に姿を変えて現われた。「吾はスサノオ大神・アスカ大神なり。吾れを祀らば疫病を祓い、福を増し、永く此の郷土を栄えしめん。」と御神託を授け、黒珍は一祠を建て鄭重にお祀りし、神社は創建されたと伝えられる。

素盞雄神社は、区内で最も広い地域（町屋地区・南千住地区・三河島地区）の61カ町に氏子を持つ鎮守で、「てんのうさま」とも呼ばれる。

毎月1日は「おついたち」

神社のある千住は、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅へ出発した地点として知られ、「奥の細道」には「千じゅと云所にて船をあがれば前途三千里のおもひ胸にふさがりて幻のちまたに離別の泪をそゝぐ」と記されています。この時に、芭蕉が詠んだ矢立初めの句碑（松尾芭蕉の碑）は境内にある。

また、3年に一度の大祭で2日間に渡って氏子域を渡御する二天棒の千貫神輿は、左右に振りながら担ぐ神輿振りの姿はまさに圧巻。

定期的な健診受診を

健康教室　社会保障対策部・労働対策部共催

皆、わかりやすい説明に感心

【社会保障対策部・堀井龍二部長】７月25日、支部会館３階にて社会保障対策部と労働対策部共催で健康教室を33人が参加で開催しました。前半は講師に東京土建国保組合の職員で保健師の山藤愛子さんを迎え、「健診結果表のみかた」について学習し、後半は仁田書記が講師で「アスベスト健康教室」と題し学習しました。

私自身も健診で糖尿病の一歩手前と言われており、これは怖いなと思っていて気をつけようと思っています。後半のアスベストの学習では、アスベストの怖さや事情をあらためて認識しました。危険なのは当時の政府も知りながら使用していたということであり、国の責任は重大です。疑いがあれば受診すべきです。

資料を見る目も真剣

組合の認知度向上を

南千住分会　汐入地域住宅デー

【南千住・根本武義記者】７月６日、分会では汐入にある相原宅の居酒屋「とうちゃん」前で今年も汐入地域住宅デーを行いました。

天候にも恵まれ、２日前に行なったチラシ配布の宣伝効果もあったのか包丁研ぎが盛況でした。また、網戸の張替依頼もあり、６月の住宅デーよりも全体的に賑わい、皆が頑張っていました。

包丁研ぎが盛況

熱中症に注意しよう

【労働対策部&国保係】今年もすでに、熱中症による緊急搬送は昨年同月比で大幅に件数は増えています。

睡眠不足や二日酔いなどの時は、熱中症になりやすく、体調に合わせた自己管理が必要です。屋外での帽子着用や、こまめな水分、塩分補給が大切です。

高齢者は自宅で熱中症になる場合もあり、室内の温度や湿度の管理にも注意が必要です。首やワキの下など、太い血管のある場所をタオルやペットボトルなどで冷やすと、からだ全体が冷えて効果があります。

また、現場で少しでも異変を感じた場合は無理せずに仲間に知らせ、休憩をとることが重要です。屋外での一人作業は避け、止むを得ない場合は適度な休憩と水分補給をしましょう。

音の栞（しほり） ㊱

マレーシア航空機撃墜事件の今後の推移によっては、世界が再び暗黒の時代に入る恐れがある。この事件の当事者は、まさか当該航空機が民間機であるという認識は無かったようだ。そのような意味では、不運な事件ではある。

今から100年前にも重大な偶発事件が起きている。それは、第一次世界大戦のきっかけとなったセルビア人によるオーストリア皇太子夫妻暗殺事件で、サラエボで起きた。当時のオーストリアは、ハンガリーとの二重帝国であり、またドイツと同盟を結んでいた。オーストリア・ハンガリー両政府は、同盟国ドイツの了解のもとにセルビア政府に宣戦布告をしたのである。対峙するセルビアは民族的にロシアと深いつながりがあり、ロシアはセルビア支援を決意し、総動員令を発した。ドイツはロシアとその同盟国のフランスに国土を挟まれており、両国に宣戦布告をした。この機に便乗してイギリスもドイツに宣戦布告。今回の撃墜事件を端に、ウクライナ情勢がこのように発展しない事を祈る。（H）

納涼カラオケ大会
荒友会主催

日時　8月23日（土）午後7時～
場所　組合支部会館 3階会議室
参加費　500円
対象　荒友会会員及び65歳以上の組合員

※現在、荒友会の会員になられていない方もこの機会にぜひ加入して、会員になりませんか。気軽な気持ちで、多くの仲間の参加をお待ちしています。

高齢者集会
社保対部主催

日程　9月14日（日）
集合　午前9時
場所　組合支部会館 3階会議室
← ※バス移動
草加健康センター
参加費　500円
対象　65歳以上の組合員
〆切　9月8日（月）

※健康センターに移動する前に、支部でミニ学習会を行ないます。詳細、申込みは支部担当仁田書記へ。なお、先着50人迄です。

荒川文藝倶楽部
仲間の短歌・俳句・川柳

【編集部】仲間の文芸作品を披露する場を常時設け、可能な限り紹介していきます。随時、奮って編集部へ連絡を頂き投稿下さい。尚、一回につき一人一作品掲載。

（俳　句）
棟梁の　建前延ばす　熱中症
日暮里一分会　川又好一

今月の1枚

「楽しいランチ」
南千住分会
根本武義さん

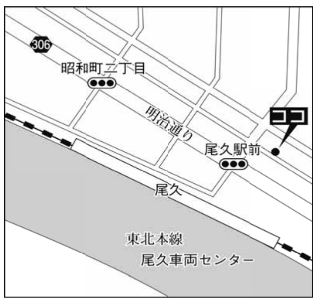
私の孫で、小学校４年生の優里と１年生の僚哉の２人。優里は小さい時は甘えん坊でしたが、今はすっかりお姉ちゃんで私が適当なことを言うと逆に注意されてしまう始末。僚哉はわんぱくのいたずらっ子でしたが、落ち着きがでて素直な良い子に成長。

真心おっ母さんの店
居酒屋　とき乃
北区昭和町１－６－８
電話　03－3800－2287

どけん ファミリーカード で行こう

ＪＲ尾久駅前の薬ヒグチの先を右に入り飲み屋横丁の中に、赤提灯が目印の開業18年になる「居酒屋とき乃」がある。

招き猫の暖簾をくぐって、店内に入ると登喜子ママが「おかえり～」と気持ち良く迎えてくれます。店内は、ママの大好きなブタちゃんグッズが沢山置いてあり、板前さんの枝（えだ）さんが手作りした大皿料理が並べられている。料理は、刺身400円～、焼魚400円ほか、30品以上を提供しています。ビックリするのが、普通の倍以上はある、でっかいおにぎりが200円、ドリンクは各種ショットが400円、ＪＩＮＲＯ焼酎ボトル２千円。また、カラオケ（１曲100円）で、歌合戦になることも。名物ママとの触れ合いにより、常連客となった人も多くいます。



ファミリーカード提示▼
締めの腹ごしらえ
一品サービス
営業時間17：00～24：00
定休日　木曜日
文・写真　堀　茂男記者
＝日暮里一分会

梅田皮革工芸

プレミアム仕様の手作り

思い出をミニランドセルにして

ランドセルは、6年間の小学校生活を成長と共に過ごした思い出のものです。そのランドセルを約4分の1の大きさに作り変え、世に送り出しているのが、地元荒川町屋育ちで「梅田皮革工芸」代表、ミニランドセル作家の寺岡孝子（てらおか・たかこ）さんです。南千住の自宅兼工房を訪ね、お話を聞きました。

（荒川区南千住3―40―10―314）

文・写真　堀茂男記者・川又好一記者＝日暮里一分会

約4分の1のサイズにリメイク

寺岡さんは、高校卒業後、就職して事務職として働いていましたが、あまりやりがいを感じられず、物足りない日々を過ごしていました。そんな折、友人から「浅草に、こういうカバン屋があるのだけれど、一緒に行こう」と誘われ、そのカバン屋に行きました。たまたま、そこで社員の募集をしているのを見かけ、応募してみたところ合格し、入社することになりました。今から16年前の事です。

独自製法で 1日1つ製作

入社したそのお店では、製作工房も併設されていました。洋服などのモノ作りが大好きな寺岡さんは、販売に配属されるものと思っていたところ製作に配属となったので、嬉しかったそうです。工房では、布製の自社ブランドバック作りがメインでしたが、シーズン限定でミニランドセルの製作注文を受け、毎年数百個を作っていました。これが、ミニランドセルとの最初の出会いで、初めて手に取って見た時は、そのあまりの可愛いらしさに衝撃を受け、あっという間にミニランドセルのとりこになってしまうとともに、やりがいを見つけました。しかし、そこではミシン縫いによる生産効率重視で製作していました。そのうち、こだわり手作りの納得できるミニランドセルを作りたいという思いが抑えきれなくなり、2001年に自宅で「ミニランドセル・梅田皮革工芸」を工房に勤めながら、自宅で開業しました。

丁寧にミシンの縫い目をほどいて、元の縫い目を一針一針手縫いで拾っていくという独自製法でやっているので、とても美しい仕上がりになります。また、元の状態の雰囲気を大切にするため、再利用を心がけ、使えるものは取り外して使い、なるべく新しい材料は使いません。

そして、基本的に1日に1つしか製作はしません。分業により作業効率が上がって、製作数量も増えますが、すべての工程を自身1人で行なっています。

なお、現在、ホームページから注文のあった製作待ちの物が、工房に100個以上もあり、仕上がりが5ヵ月待ちとなっています。

一針一針手縫いして製作

工房にて取材に応じる寺岡さん

生産性より 母親目線重視

ランドセル愛好家を自認する寺岡さんは、大好きなミニランドセル作りに手間を惜しまず、母親目線で可愛さと温かさと優しさを大切に、生産効率重視のものとは全く違う、味わいがあるものをこれからも作り続けたいと言っていました。

また、売り上げの一部を貧しい国の子供達への奨学金や、東日本大震災の津波遺児支援をするなど社会貢献活動もしています。

そして、荒川区産業展にも毎回出展していますので皆様もぜひ一度、足を運びお立ち寄り下さい。

モノつくりと匠の町 其の107 あらかわ

ひとくち映画情報

『フライト・ゲーム』

ジャウム・コレット＝セラ監督

C 2014 TF1 FILMS PRODUCTION S.A.S STUDIOCANAL S.A

2011年の大ヒット映画『アンノウン』でタッグを組んだジャウム・コレット＝セラ監督とリーアム・ニーソンが再び放つサスペンス・アクション。

高度1万2000メートルを飛ぶ旅客機を舞台に、機内警備担当の航空保安官と連続殺人犯の息詰まる攻防戦をスリリングに描いています。

警備のため、ニューヨーク発ロンドン行きの旅客機に乗り込んだ航空保安官ビル（リーアム・ニーソン）のもとに差出人不明のメールが届きます。その内容とは、「1億5000万ドルを指定の口座に送金しなければ、20分ごとに乗客を一人殺す」という驚くべきものでした。ビルは犯人捜しに奔走しますが、手掛かりが見つからないまま、タイムリミットが迫ります。9月6日全国公開。

訃報

●宮崎俊行さん　14年6月17日逝去　享年81歳（東尾久2・建築大工）

●大河原達夫さん　14年7月21日逝去　享年74歳（西尾久・建築大工）

●小林次夫さん　14年7月23日逝去　享年81歳（荒川・建築大工）

小林さんは、昭和36年に組合加入し、長年にわたり支部役員を歴任。昭和61年大舘支部長当時に副支部長を務め、平成に入り教宣部長の時には、支部機関紙おれたちを2面から4面に紙面を拡大し、支部の教育と宣伝活動に大きな功績を残されました。

また、支部の会議では論客で知られた人でもあり、2年前までは支部会計監査もされていました。

謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

仲間の横顔 ①

大川幸夫さん（西尾久分会）

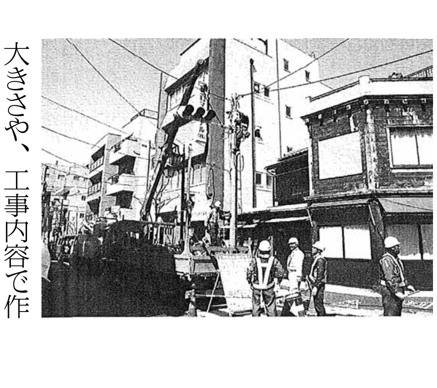
夏の暑い時や冬の寒い時でも一年中休み無く、道路に設置されている信号機は、交通整理をしている。その信号機の新設・交換・移設・撤去などの工事全般を専門に仕事としている、大川幸夫さんにお話を聞きました。

「うちの分会は、群が14群あり、私は15群（38人）に所属しています。私は現在、分会役員の分会長を担当しています。

仕事は交通信号機の工事ですが、現場は9人体制で行います。交差点の大きさや、工事内容で作業時間は異なり、高所作業車やクレーン車を使用し、作業をしている。現場は都内の信号機工事が多く、月に24～25日は働くが、現場の有無次第。

趣味は釣りですが、海と川、どちらもします。最近は川には行かず、海が主になっています。他に映画鑑賞もしますが、時間が無いのでなかなか行けません。

平成20年頃、現場でお腹が痛くなり、病院に運ばれたのですが盲腸を我慢していたことから、腹膜炎を起こしたものの、命拾いをしました。土建国保で良かったです。」



取材 川又好一記者＝日暮里一分会